

平成 19 年度事業報告(案)および収支決算(案)
中部国際空港利用促進協議会 平成 19 年度事業報告 (案)
(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

〔事業活動の概要〕

中部国際空港（セントレア）は、開港から 3 年目を迎え、関係各位の支援のもと、中部の空の玄関として成長できるよう、様々な取り組みを行ってきた。当協議会としても、地元企業に対して、セントレアの優先利用を呼びかける「フライ・セントレア 2007」、「フライ・セントレア・カーゴ」および、セントレアと結ばれている各地方空港との相互の旅客需要増大を図るための「ウエルカム to セントレア 2007」を実施するなど、利用促進に向けた様々な活動を展開した。

しかしながら、燃料価格の高騰など航空各社を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、航空需要にとってマイナスとなる要因は依然として多く、昨年度に続く国内線需要の伸び悩み、一昨年秋以降の航空貨物取扱量の伸び悩みの他、路線運休の表明が相次ぐ等、これまで以上に空港の利用促進に向けた様々な取り組みを強化していく必要性に直面した一年であった。また、関西国際空港の第二滑走路が供用開始され、成田国際空港や東京国際空港の拡張を控えていることから、後背地人口や産業集積が大きい首都圏などの空港に航空会社が路線を集中させ、中部圏の就航路線・便数が大きく減少するのではないかとの懸念もある。セントレアを取りまく環境はますます厳しさを増し、大きな転換点を迎えている。

〔主な活動内容〕

I. 旅客需要拡大事業

(1) 「フライ・セントレア 2007」の実施

セントレアに新規に就航した路線の定着と、既存路線の増便、さらなる新規路線の拡充に向け、旅客・貨物両面でセントレアを優先して利用することを働きかける「フライ・セントレア 2007」を実施した。

① フライ・セントレア ビジネス便利帳 vol. 4、vol. 5 の作成

ビジネス旅客を対象に、海外出張の際、より一層便利にセントレア発の海外直行便を利用できるよう、「フライ・セントレア ビジネス便利帳」を作成した。

地元企業の海外拠点への乗り継ぎが一目でわかる航空会社・ルートや時刻表、各航空会社のビジネス出張に特化したサービス内容などの情報

を紹介した。昨年度に引き続き、年2回、それぞれ4,000部を発行し、賛助会員をはじめ地元主要企業や旅行会社など関係先へ配布した他、地元企業へのセールスにも活用した。

② 「フライ・セントレア意見交換会」の開催

11月、「フライ・セントレア意見交換会」を名古屋市内のホテルで開催した。本意見交換会は、愛知、岐阜、三重、静岡、長野の各県に拠点を置く海外出張の多い企業の役員秘書や海外出張担当者と、セントレアに就航している各航空会社のセールス担当者が一堂に会するもので、昨年を大きく上回る200名以上の参加があった。2回目となる今回は、航空会社毎にブースを設ける等、企業担当者と航空会社間の意見交換をよりしやすくしたことで、より一層活発な意見交換が実現した。

(2) 「ウエルカム to セントレア 2007」の実施

① 空港間連携事業の実施

セントレア便が就航している国内の各空港の支援団体等に対し、両空港が連携した利用促進活動を実施する「空港間連携事業」を昨年度に引き続き実施した。本事業は、万博閉幕後伸び悩みが続く国内線の需要喚起を図り、路線の維持・拡大などを目的としている。今年度は、新千歳、函館、青森、秋田、いわて花巻、米子、徳島、松山、福岡、大分、鹿児島、那覇の12空港を訪問し、利用促進に向けた意見交換を行った。その結果、セントレア便を利用した旅行商品の新規造成や、セントレアでの誘致イベントの実施、旅行商品への特典の付与など様々な利用促進策が検討され、合意が得られた米子や大分などの支援団体と具体的な取り組みを行うことが出来た。

② 周辺地域への共同キャラバン事業

今年度に予定されている東海北陸自動車道の全線開通（平成20年7月に延期）により、北陸北部地域とセントレアとのアクセス利便性が向上するため、9月に名古屋エアラインズアソシエーション（NAA）、中部国際空港株式会社と共同で、富山・石川両県で旅行会社を対象とした「セントレア利用促進セミナー」を実施した。

また、同自動車道は、中部地域への外国人周遊機会の増大が期待できるため、セントレアからのインバウンド需要の拡大に関心を持っていただくことを目的に、富山・石川両県副知事への表敬訪問もあわせて実施した。

(3) 訪日外国人旅行客誘致事業

① ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）への参画

訪日外国人旅行客誘致事業の一環として、名古屋で毎年開催されてきた「世界コスプレサミット」を活用したビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）事業「アニメ文化発信による交流促進事業」に参画した。本交流促進事業は、世界の若者に人気のアニメやマンガを通じ、外国人旅行客の誘致と新しい形の国際交流の促進を目的としており、当協議会としてセントレアでの「セントレア歓迎交流会」も含めた関連イベントに協力した。

② 訪日外国人客へのパンフレットの作成

日本に在住するブラジル人の約6割が当地域に集中していることから、ブラジル人のセントレアの利用拡大を図るため、3月、セントレアからブラジルへ便利に行ける航空会社・ルートの紹介や、空港内施設、駐車場、空港へのアクセスなどを掲載した「セントレア利用ガイド」（ポルトガル語版）を30,000部作成した。在日ブラジル人が多い地元自治体を中心に、セントレアや南米系旅行会社、レストラン、ブラジル総領事館等へ配布した。

II. 貨物需要拡大事業

中部地区における貨物需要の取り込みをより一層推進するため、新事業を立ち上げ、地元企業へのセントレアの優先利用をお願いした。

(1) セントレア・ビジネス・ミーティング

当協議会の後援のもと、中部国際空港(株)が「セントレア・ビジネス・ミーティング」を11月28日に名古屋で、30日に東京においてそれぞれ開催した。これは、中部国際空港(株)の事業にご協力いただいている航空業界、物流業界、観光・旅行業界等に対して、中部国際空港(株)の新体制のもとで、稲葉良暉代表取締役社長自らが航空貨物を中心とした中期的な営業戦略の方向性を説明し、より多くの関係者がセントレアを利用することを期待し計画されたものである。その中で、航空貨物については、大韓航空と共同開発した国際貨物便の新サービス「セントレアコネクション」を発表した。この新サービスは、貨物を韓国の仁川空港を経由することで、成田空港等からの直行便に遜色のないリードタイムの航空輸送を実現するもので、欧米・アジアの10都市と結び、セントレアの航空貨物取扱量の拡大を図るものである。当日は名古屋会場には220名、東京会場には130名が参加し、国際貨物を利用する企業に対してセントレアの優先利用を促した。

(2) 「フライ・セントレア・カーゴ」パートナー企業説明会

12月13日、「フライ・セントレア・カーゴ パートナー企業説明会」をセントレアにて開催した。これは、セントレアの航空貨物の需要拡大と新規路線誘致に繋げるため、目的に賛同いただける地元の荷主企業やフォワーダーとコミュニティを形成し、地元の結束力・意志を各航空会社へアピールすることによって、セントレアへの航空貨物便の新規就航・増便を図っていく事業である。参加者には、セントレアの航空貨物に関する現状と課題を報告し、さらに「フライ・セントレア・カーゴ」による当パートナー企業になることを要請した。当事業への賛同を呼びかけるとともに、賛同企業には「セントレア発着便の利用」方針を明確にしてもらうようお願いした。参加企業は20社・26名であった。

(3) 名古屋出張所野跡検疫場の畜舎拡充に関する要望活動

セントレアでは、食用馬を輸入しており、その取り扱いには、主にボーイング747貨物専用機を使用し、1便当り115頭程度の食肉馬が例年60便ほどカナダから日本に空輸されている。また、食用馬の輸入量も年々増加している。

こうした中、セントレアへの到着時には、食肉馬は名古屋出張所野跡検疫場の畜舎にて係留されるが、同畜舎の収容能力が最大86頭であり、輸送効率が悪くなるため、運送事業者等は積極的にセントレアを利用しない状況が発生している。

このような事情に鑑み、6月、農林水産省の消費安全局および横浜検疫所に対して、名古屋出張所野跡検疫場の畜舎の拡充についての要望活動を行った。

Ⅲ. 広告宣伝事業

(1) PRポスターの作成

海外旅行者の増大を図るため、5月にセントレアの直行便の優先利用を呼びかける「フライ・セントレア・キャンペーン」のPRポスターを5,000部作成し、地元主要企業、旅行会社等関係先へ配布した。

(2) 広報誌「あおぞら」の発行

セントレアをわかりやすく紹介し、より親しみを抱いてもらうことを目的として、当協議会の広報誌「あおぞら」を年3回、それぞれ14,000部発行した。会員、賛助会員企業はもとより、関係機関、全国の空港等へ幅広く配布し、セントレアのPRに努めた。

IV. 海外航空会社へのエアポートセールス

構成団体などにおける海外ミッション派遣、あるいは海外からの要人受け入れ等の機会をとらえて、航空会社に対しエアポートセールスを実施した。

【愛知県】

○欧州(平成19年10月24日～31日の8日間)

神田真秋 愛知県知事

的井宏樹 愛知県地域振興部長

平野幸久 中部国際空港(株) 取締役会長 ほか

ドイツ、フィンランド及びフランスの3カ国を訪問し、中部国際空港(株)と連携して、ルフトハンザ・ドイツ航空、フィンランド航空及びエールフランスKLM航空の3つの航空会社や政府機関等に対して、新規路線の就航や既存路線の増便、相互の交流拡大と支援を働きかけた。

○アメリカ(平成19年10月28日～11月3日の7日間)

西村 眞 愛知県副知事

片桐正博 愛知県地域振興部次長

伊藤鎮樹 中部国際空港(株) 代表取締役副社長 ほか

アメリカ合衆国を訪問し、中部国際空港(株)と連携して、ノースウエスト航空、デルタ航空及びユナイテッド航空の3つの航空会社や政府機関等に対して、新規路線の就航や既存路線の増便、相互の交流拡大と支援を働きかけた。

【名古屋商工会議所】

○東南アジア経済交流使節団(平成19年7月31日～8月9日の10日間)

団 長：箕浦宗吉 名古屋商工会議所 会頭

副団長：高橋治朗 名古屋商工会議所副会頭

安井義博 名古屋商工会議所副会頭

栗岡完爾 名古屋商工会議所副会頭

平野幸久 中部国際空港(株) 取締役会長

マレーシア航空、ガルーダ・インドネシア航空を訪問し、既存路線の維持、路線の再開を働きかけた。

○中東(平成19年9月13日、14日の2日間)

高橋治朗 名古屋商工会議所副会頭

安井義博 名古屋商工会議所副会頭

栗岡完爾 名古屋商工会議所副会頭

稲葉良規 中部国際空港(株) 代表取締役社長 ほか
アラブ首長国連邦ドバイのエミレーツ航空を訪問し、既存路線の安定的な運行を要請した。カタールではカタール航空に対し、新規路線の就航を働きかけた。

【(社)中部経済連合会】

○北米経済視察団(平成19年9月16日～27日の12日間)

団 長：川口文夫 (社)中部経済連合会 会長
中部電力(株) 代表取締役会長

副団長：平野幸久 中部国際空港(株) 取締役会長
小林長久 (社)中部経済連合会 副会長

日本トランスシティ(株) 代表取締役社長

アメリカ合衆国、カナダの2カ国を訪問し、中部国際空港(株)と協力して、北米のノースウェスト航空、エア・カナダ、コンチネンタル航空、ユナイテッド航空、ユナイテッド・パーセル・サービス(株) (UPS: United Parcel Service Inc.) の5つの航空会社の首脳と懇談し、新規就航や路線の再開を要請した。

V. 会議開催

(1) 理事会

日 時：平成19年6月8日

議 事：1. 平成18年度事業報告(案)および収支決算(案)について
2. 平成19年度事業計画(案)および収支予算(案)について

(2) 賛助会員大会

日 時：平成19年6月8日

内 容：1. 当協議会の平成19年度の取り組みについて

2. 記念講演

演題：「中部国際空港をめぐる航空行政の最近の動き」

講師：国土交通省航空局飛行場部長 小野 芳清 氏

(3) 幹事会

日 時：平成19年5月18日

議 事：1. 中部国際空港の近況報告について

2. 平成18年度事業報告(案)および収支決算(案)について

3. 平成19年度事業計画(案)および収支予算(案)について

4. その他

(4) 企画運営会議

① 第1回企画運営会議

日 時：平成19年4月27日

- 議 事：1. 中部国際空港の近況報告について
2. 平成18年度事業報告(案)および収支決算(案)について
3. 平成19年度事業計画(案)および収支予算(案)について
4. その他

② 第2回企画運営会議

日 時：平成20年3月17日

- 議 事：1. 平成19年度事業報告(案)および収支決算(案)について
2. 平成20年度事業計画(案)および収支予算(案)について
3. 理事の委嘱について
4. 旅客部会、物流部会について
5. その他

(5) 旅客部会

日 時：平成19年8月6日

- 議 事：1. 平成19年度VJC事業「アニメ文化発信による交流促進事業
セントレア歓迎交流会について
2. 中部国際空港の近況報告について
3. フライ・セントレア2007
4. ウェルカム to セントレア2007
5. 訪日外国人旅行客誘致事業
6. その他

(6) 物流部会

日 時：平成20年3月25日

- 議 事：1. 中部国際空港航空貨物の現状と拡大に向けた活動について
2. 平成19年度物流部会活動報告について
3. 平成20年度物流部会事業計画について
4. 国際物流戦略チームによる取組の展開について

以 上